

平成20年3月期(第67期)中間ご報告

平成19年4月1日から平成19年9月30日まで



日機装株式会社

証券コード 6376



代表取締役社長

甲斐敏彦

株主の皆様には、ますますご清栄のこととお喜び申しあげます。平素より格別のご支援をいただき、まことにありがとうございます。ここに、日機装グループの平成20年3月期（第67期）中間期の事業概況をご報告いたします。

当中間期は、業容の拡大と収益率の向上を展望し、生産拠点については、生産量増加への対応、効率化とコスト低減を、営業については体制の整備を、全社的には内部統制の整備に取り組んでまいりました。

業績について

当中間期の業績は、受注高370億円（対前年同期比11.4%増）、売上高342億円（同13.0%増）、営業利益29億円（同34.6%増）、経常利益30億円（同14.2%増）、中間純利益21億円（同33.0%増）でした。

受注、売上、営業利益、経常利益、中間純利益のすべての項目で上期としては過去最高の実績をあげることができました。

特に受注高においては、半期として過去最高という実績となりました。期末受注残高は高水準を維持しており、今期以降も売上の拡大傾向が続く見込みです。現在、生産設備増強と並行して主力の東村山製作所の全面的な生産効率化に取り組んでおり、利益率の向上に努めてまいります。

部門別では、引き続き工業部門が好調で、売上高は前年同期比22%増加いたしました。

一方、医療部門はダイアライザーや血液回路などの消耗品は順調に売上を伸ばした反面、上期中に予定していた新型透析装置のリリースが遅れた影響で、売上高は前年同期比5%の増加にとどまりました。下期は製品のラインアップが整い、透析装置受注が強含みで推移していることから、売上・利益とも改善を見込んでおります。

いっそうの飛躍のために

● 今後の事業拡大の礎とするための生産体制の整備について

- ・ 東村山製作所の設備更新・増強
- ・ 静岡製作所複合材製品工場の増設
- ・ 金沢製作所医療機器工場の設備増強
- ・ 米国にクライオジェニックポンプ生産体制を構築
- ・ 上海のポンプ工場の移転、規模拡大

- ・ドイツに欧米向け透析装置製造用工場を新規に購入
- ・ベトナムの血液回路生産工場の増設

●事業の見直し・再編について

アジア・オセアニア地域でのサンダイン製品事業の強化・拡大を目的に、当社と米国ハミルトン・サンドストランド社は30年来の事業スキームの見直しを行ない合併事業を再編しました。

その内容は、サンダインポンプの販売窓口をサンダイン日機装株式会社に、製造は日機装に一元化し、販売・製造の強化・効率化を図るものです。

●研究開発の取り組みについて

市場の要請に応じた技術・製品開発力を育みます。具体的には、以下の研究を進めています。

- ・各種疾患治療への貢献をめざす血液浄化と次世代人工臓器
- ・超臨界二酸化炭素の技術を微粒子の製造やプラスチックリサイクルシステムへ応用
- ・バイオ技術を応用した廃棄物リサイクル
- ・多層カーボンナノチューブの用途開発
- ・単層カーボンナノチューブの応用開発
- ・紫外線発光ダイオードの開発

これからの取り組み

当社を取り巻く事業環境の変化に対応した経営資源の配分を行ない、適切な施策をタイムリーに講じ、ビジネスチャンスをしっかり捉えるとともに、中長期的視野に立ち、開発・生産・販売・サービス・管理等の向上に努めてまいります。特に下期には内部統制体制を整備し、リスク管理とコンプライアンスのいっそうの強化に取り組めます。

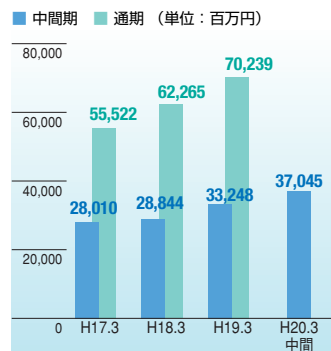
全社一丸となり業績のさらなる向上に努めますので、変わらぬご支援をお願い申し上げます。

第67期中間決算のポイント

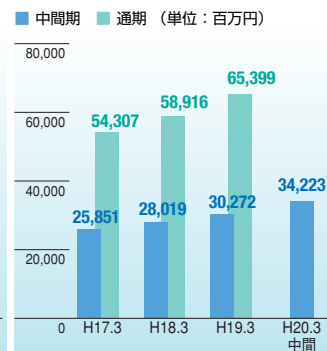
受注、売上、利益のすべての項目で過去最高

通期の受注、売上、利益も過去最高を見込む

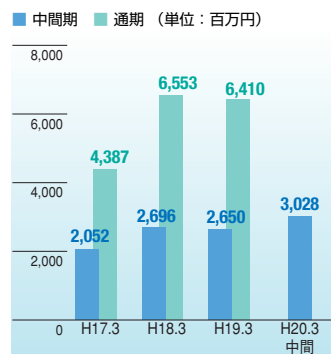
受注高



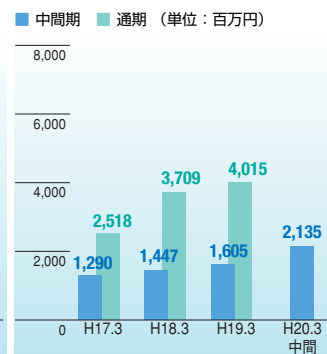
売上高



経常利益



中間（当期）純利益



部門別の事業の概況

()内は前年同期比

工業部門
受注高 **19,623**百万円 (15.6%増)
売上高 **17,114**百万円 (22.5%増)

流体技術カンパニー

受注高 **11,062**百万円 (9.3%増)
売上高 **9,063**百万円 (18.4%増)

国内においては、主要なお客様である石油・石油化学業界の大規模設備投資案件は減少したものの、既存設備の改造案件などを確実に受注することができたほか、部品販売も好調でした。

海外においては、アジアからの受注が好調であったほか、液化天然ガス関連の設備投資は依然活況で、クライオジェニックポンプの受注も好調を維持しました。また、北米のノンシールポンプ事業も軌道に乗り、業績を伸ばし始めました。

事業内容

無漏洩ポンプ（ノンシールポンプ）、高精度定量注入ポンプ（ミルフローポンプ）、高速遠心ポンプ（サンダイナポンプ）、液化ガスに使用される極低温用ポンプ（クライオジェニックポンプ）などを中心とする製品の製造・販売・メンテナンスを行なっています。



クライオジェニックポンプ
(極低温液化ガスポンプ)

カンパニー別

26.5%

15.3%

8.2%

インダストリアル ソリューションズ カンパニー

受注高 **5,745**百万円 (19.2%増)
売上高 **5,229**百万円 (21.8%増)

原子力向け水質調整装置の受注が好調でした。また、電子部品市場の好況を背景に、アジア向けを中心に温水ラミネータの受注、売上が伸び過去最高を記録しました。粒度分析計関係は、受注・売上ともに好調を維持しています。

事業内容

火力・原子力発電所を中心とする各種産業向け水質調整装置およびこれらの周辺自動化装置などを組み合わせたシステム製品、温水ラミネータ等の電子部品生産機器、粉粒体の粒度分析計などの製造・販売・メンテナンスを行なっています。



火力発電所向け
試料採取装置

複合材カンパニー

受注高 **2,814**百万円 (38.6%増)
売上高 **2,821**百万円 (39.3%増)

航空機業界は依然活況を呈していて、民間航空機の主要機体メーカーであるボーイング社およびエアバス社とともに各エアラインから活発な注文を受けました。また、近距離用小型旅客機の受注も順調に伸びました。その結果、当社のカスケードの出荷数も好調に推移し、受注・売上を伸ばすことができました。

また、前期に着手した工場拡張工事も予定どおり無事完了しました。すでに一部の設備の稼働を開始し、増産体制を整えつつあります。

事業内容

炭素繊維強化複合材製品の製造・販売を行なっています。主力製品は航空機用逆噴射装置部品（カスケード）です。



カスケード

医療部門

医療機器カンパニー

受注高 17,422百万円 (7.1%増)

売上高 17,108百万円 (5.0%増)

売上構成比

50.0%



事業内容

人工腎臓装置、ダイアライザー、血液回路、粉末型透析用剤などの血液透析関連製品や人工臓器等の医療機械・器具の製造・販売・メンテナンスを行なっています。

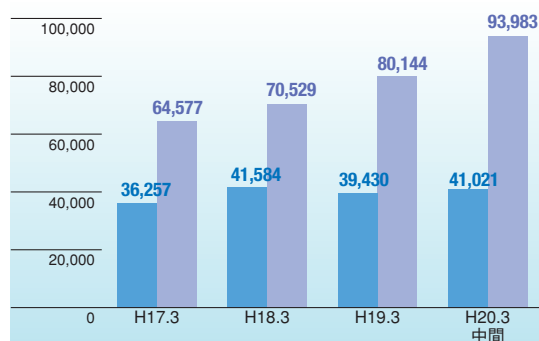
個人用透析装置
DBB®-73

国内の医療制度の見直しにより病院の経営環境が厳しさを増す中、主力の血液透析関連の市場は装置の買い控え傾向が続き、新型装置のリリースが遅れた影響もあって売上は伸び悩みました。一方、透析関連消耗品では市場で高い評価を受けているPEPA膜のダイアライザーと血液回路は増産体制が整い、順調に販売数量を伸ばしています。さらに、人工腎臓透析用剤「DドライS」も売上を伸ばしました。

海外では、昨年買収したドイツ子会社による人工腎臓装置の現地生産の体制整備に着手するとともに、欧州市場やアジア市場の需要増に向けて販売網の整備・拡大を行ないました。

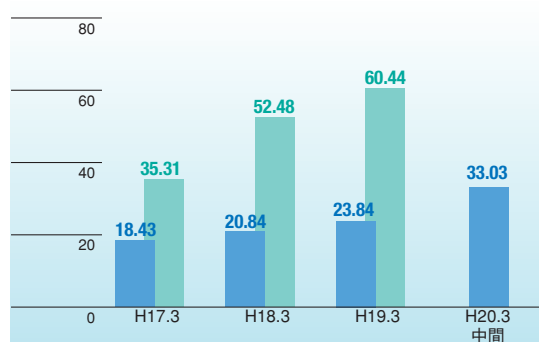
総資産・純資産

■ 純資産 ■ 総資産 (単位: 百万円)



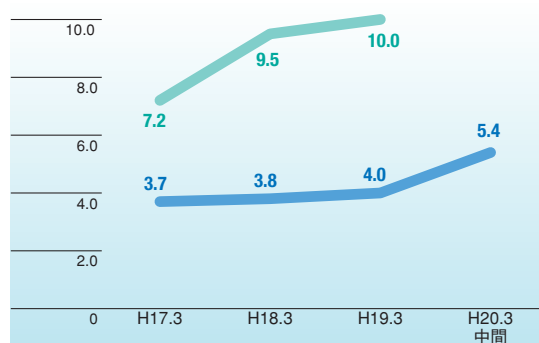
1株当たり中間(当期)純利益

■ 中間期 ■ 通期 (単位: 円)



株主資本中間(当期)純利益率(ROE)

■ 中間期 ■ 通期 (単位: %)



クライオジェニックポンプ 米国生産体制構築

石油から天然ガスへのエネルギー転換が本格化し、LNG（液化天然ガス）プラントなどに使用されるクライオジェニックポンプの需要が増加を続けています。またプラント規模の拡大にともなう同ポンプの大型化・高圧化も進み、当社では生産能力増強の必要に迫られてきました。そのため国内生産拠点の能力補完を目的に、クライオジェニックポンプの米国拠点Nikkiso Cryo, Inc.（100%子会社）に組立・生産設備

の導入を進めています。すでに2007年9月には米国産ポンプ13台を中東向けに初出荷しており、今後は大型機を中心に、設計から部品調達、組立、テスト、出荷までの一貫

した米国生産体制を構築し、増加するマーケット需要に日米の2拠点体制で応え、さらなる受注拡大を図ります。



米国産クライオジェニックポンプ

新型人工腎臓装置販売開始

2007年10月、新型個人用透析装置「DBB-81」および新型多用途透析用監視装置「DCG-03」の販売を開始しました。

「DBB-81」は機器に慣れていない操作者であっても安心して確実に操作ができることを設計コンセプトに、ICUやリカバリールーム（回復室）など、透析室以外の個室環境でも使用しやすいよう考慮して開発したものです。また「DCG-03」は通常の血液透析のほか、補液を注入し

て行なう血液ろ過療法および血液透析ろ過療法を行なうことができる装置で、従来機に比べ患者様の快適な治療環境を確保し、また透析技士・看護師の方の作業性を大幅に向上させるなど、さまざまな改良がなされています。

当社は透析を必要とするすべての方へ、さらに安全で快適な治療環境を提供するため、今後も積極的な開発、生産、営業活動を続けてまいります。



(左) 新型個人用透析装置「DBB®-81」

(右) 新型多用途透析用監視装置「DCG®-03」

透析通信システム 「FutureNet II」

日機装は、日本における透析装置のパイオニアとして、半世紀にわたり透析医療に携わってきました。おかげさまで、透析装置の国内シェアは現在50%を越えています。今回は、この透析装置の普及を支える透析通信システム「FutureNet II」をご紹介します。



FutureNet 今昔

当社がFutureNet（初代システム）を事業化したのは1992年。透析患者様がIDカードを挿入し体重計に乗るだけで、個々の治療に適した透析条件を瞬時に透析装置に送り、必要な物品や注射、薬剤などを装置画面に表示。医療スタッフはその画面を見ながら正確な処置を行なうことができ、また患者様の症状や訴えなどを装置のタッチパネルから簡単に入力できます。

発売当時は、透析医療に携わる看護師の方などが、重い透析カルテを持ち歩く必要がなく、データの転記ミスも防ぐことができるなどの利点が評価され、医療スタッフのニーズをとらえた製品として普及してきました。

最近では、医療過誤防止や情報ネットワ

ーク化の観点から、厚生労働省がカルテやレセプト（診療報酬明細）の電算化普及を強く推進しており、これを受けた病院やクリニックが相次いで医療情報システム（電子カルテやオーダリングシステム）を導入しています。長年の実績に加え、医療システムとの親和性が高いFutureNet II（現行システム）は、こうしたシステムと合わせて導入され、先進医療の一翼を担うケースが急増しています。

FutureNet IIとは

腎臓に疾患を抱える患者様には、定期的な人工透析が必要です。人工透析とは、おもし慢性腎不全で腎臓の動きがなくなった方に行なう治療法です。血液と透析液をダイアライザー（透析器）に通し、血液中の

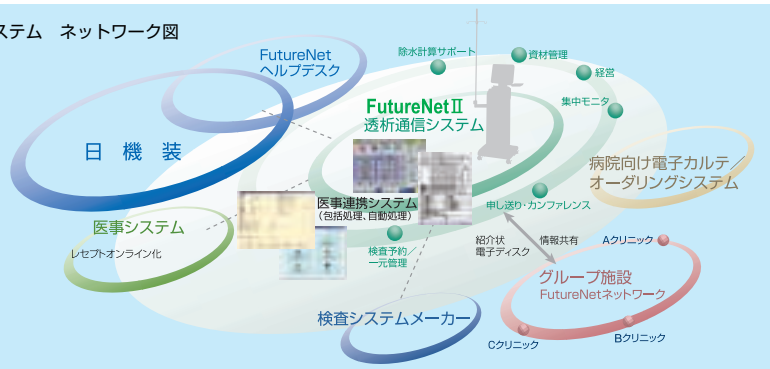
老廃物や余分な水分を除去して体内に戻すものです。

日本の透析患者数は年々増え続けており、現在は26万人以上といわれています。このため透析医療に従事する医療スタッフの負担も年々増加傾向にあり、FutureNet IIはこうした医療スタッフの負担を軽減するために開発されました。人工透析を行なう透析装置に、当社が特許を持つコンピュータの端末としての機能を持たせ、体重計や電子カルテシステムなどとネットワーク化することで、透析スタッフの作業負担を大幅に軽減し、空いた時間は患者様のケアに専念していただくことができるのです。

FutureNet IIの可能性

FutureNet IIは、透析装置をネットワーク化することでその能力を発揮するシステムであり、その普及は当社の透析装置の販売拡大に直結します。日本における透析装置のパイオニアである当社にとって、FutureNet IIはその地位をさらに盤石なものとするために今では欠かせない存在となっています。年内には、FutureNet IIの一部機能を集約してコストを抑え、床数の少ないクリニックでも導入しやすいシステムを投入する計画です。さらに、FutureNet IIの後継システムの開発も進んでいます。

透析通信システム ネットワーク図



連結財務諸表

中間連結貸借対照表

(単位：百万円、百万円未満切捨て)

科 目	当中間連結 会計期間末	前連結 会計年度末
	平成19年9月30日現在	平成19年3月31日現在
資産の部		
流動資産	57,637	45,547
固定資産	36,345	34,597
有形固定資産	19,119	17,069
無形固定資産	2,025	1,932
投資その他の資産	15,200	15,594
資産合計	93,983	80,144
負債の部		
流動負債	32,134	29,954
固定負債	20,827	10,760
負債合計	52,961	40,714
純資産の部		
株主資本	37,162	35,427
資本金	6,094	6,094
資本剰余金	10,272	10,272
利益剰余金	27,948	26,201
自己株式	△7,154	△7,141
評価・換算差額等	3,243	3,449
少数株主持分	615	553
純資産合計	41,021	39,430
負債純資産合計	93,983	80,144

中間連結損益計算書

(単位：百万円、百万円未満切捨て)

科 目	当中間連結 会計期間	前中間連結 会計期間
	平成19年4月1日から 平成19年9月30日まで	平成18年4月1日から 平成18年9月30日まで
売上高	34,223	30,272
売上原価	23,152	21,005
売上総利益	11,071	9,267
販売費及び一般管理費	8,133	7,085
営業利益	2,938	2,182
営業外収益	488	625
営業外費用	397	157
経常利益	3,028	2,650
特別利益	885	0
特別損失	50	109
税金等調整前中間純利益	3,863	2,541
法人税、住民税及び事業税	1,539	822
法人税等調整額	196	104
少数株主利益	△7	9
中間純利益	2,135	1,605

中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円、百万円未満切捨て)

科 目	当中間連結 会計期間	前中間連結 会計期間
	平成19年4月1日から 平成19年9月30日まで	平成18年4月1日から 平成18年9月30日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,192	△181
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,820	△2,068
財務活動によるキャッシュ・フロー	9,446	△966
現金及び現金同等物に係る換算差額	76	3
現金及び現金同等物の増減額	8,893	△3,213
現金及び現金同等物の期首残高	6,278	8,077
現金及び現金同等物の中間期末残高	15,172	4,863

中間連結株主資本等変動計算書

(単位：百万円、百万円未満切捨て)

当中間連結会計期間 平成19年4月1日から平成19年9月30日まで	株 主 資 本					評 価 ・ 換 算 差 額 等			少数株主持分	純資産合計
	資 本 金	資本剰余金	利益剰余金	自 己 株 式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	為替換算 調整勘定	評価・換算 差額等合計		
平成19年3月31日残高	6,094	10,272	26,201	△7,141	35,427	2,978	471	3,449	553	39,430
中間連結会計期間中の変動額										
剰余金の配当			△387		△387					△387
中間純利益			2,135		2,135					2,135
自己株式の取得				△16	△16					△16
自己株式の処分		0		3	3					3
株主資本以外の項目の中間 連結会計期間中の変動額(純額)					—	△623	417	△205	62	△143
中間連結会計期間中の変動額合計	—	0	1,747	△13	1,734	△623	417	△205	62	1,591
平成19年9月30日残高	6,094	10,272	27,948	△7,154	37,162	2,354	889	3,243	615	41,021

単独財務諸表

中間貸借対照表

(単位：百万円、百万円未満切捨て)

科 目	当 中 間 前 事 業 末	当 中 間 前 事 業 末
	会 計 期 間 末	会 計 期 間 末
	平成19年9月30日現在	平成19年3月31日現在
資産の部		
流動資産	50,863	40,442
固定資産	36,649	34,978
有形固定資産	15,281	14,155
無形固定資産	259	263
投資その他の資産	21,108	20,558
資産合計	87,513	75,420
負債の部		
流動負債	29,776	29,189
固定負債	20,570	10,514
負債合計	50,347	39,703
純資産の部		
株主資本	34,816	32,744
資本金	6,094	6,094
資本剰余金	10,272	10,272
利益剰余金	25,603	23,516
自己株式	△7,154	△7,139
評価・換算差額等	2,348	2,972
純資産合計	37,165	35,716
負債純資産合計	87,513	75,420

中間損益計算書

(単位：百万円、百万円未満切捨て)

科 目	当 中 間 前 中 間	当 中 間 前 中 間
	会 計 期 間	会 計 期 間
	平成19年4月1日から平成19年9月30日まで	平成18年4月1日から平成18年9月30日まで
売上高	30,022	26,975
売上原価	21,561	19,634
売上総利益	8,460	7,340
販売費及び一般管理費	5,683	5,238
営業利益	2,777	2,102
営業外収益	771	768
営業外費用	397	130
経常利益	3,150	2,740
特別利益	1,032	0
特別損失	48	96
税引前中間純利益	4,134	2,644
法人税、住民税及び事業税	1,373	699
法人税等調整額	286	128
中間純利益	2,474	1,816

中間株主資本等変動計算書

(単位：百万円、百万円未満切捨て)

当中間会計期間 平成19年4月1日から平成19年9月30日まで	株 主 資 本							評 価 ・ 換 算 差 額 等 そ の 他 有 価 証 券 評 価 差 額 金	純 資 産 合 計
	資 本 金	資 本 剰 余 金	利 益 剰 余 金	自 己 株 式	株 主 資 本 合 計	評 価 ・ 換 算 差 額 等	純 資 産 合 計		
	資 本 金	資 本 準 備 金	そ の 他 資 本 剰 余 金	利 益 準 備 金	そ の 他 利 益 剰 余 金	自 己 株 式	株 主 資 本 合 計	評 価 ・ 換 算 差 額 等	純 資 産 合 計
平成19年3月31日残高	6,094	10,251	21	1,461	22,054	△7,139	32,744	2,972	35,716
中間会計期間中の変動額									
剰余金の配当					△387		△387		△387
中間純利益					2,474		2,474		2,474
自己株式の取得						△16	△16		△16
自己株式の処分			0			1	2		2
株主資本以外の項目の中間 会計期間中の変動額(純額)							—	△623	△623
中間会計期間中の変動額合計	—	—	0	—	2,086	△14	2,072	△623	1,448
平成19年9月30日残高	6,094	10,251	21	1,461	24,141	△7,154	34,816	2,348	37,165

会社概要・株式の状況 (平成19年9月30日現在)

会社の概況

創業日	昭和28年12月26日 (登記上の設立日は昭和25年3月7日)
資本金	6,094,984,191円
従業員数	連結 3,797名 当社単独 1,350名

役員・執行役員

代表取締役社長	甲斐 敏彦	執行役員	房前 芳一
常務取締役	長尾 章弘	執行役員	本間 久
取締役執行役員	久保田道夫	執行役員	野上 宏
取締役執行役員	木下 博	執行役員	西脇 章
取締役執行役員	中村 洋	執行役員	宮田 博明
取締役相談役	音 孝	執行役員	八木 隆雄
常勤監査役	山本 光祥	執行役員	中村 香
常勤監査役	圓尾 樹生	執行役員	素木 岫一
監査役	中根堅次郎	執行役員	伴 信彦
監査役	菊地裕太郎	執行役員	田中 康之

会計監査人

監査法人	トーマツ
------	------

株式の状況

発行可能株式総数	249,500,000株
発行済株式の総数 (うち自己株式)	72,611,464株 7,984,575株
株主数	8,962名

大株主

株主名	持株数(千株)	出資比率(%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	3,274	4.50
株式会社みずほ銀行	3,199	4.40
株式会社みずほコーポレート銀行	2,577	3.54
三井住友海上火災保険株式会社	1,966	2.70
株式会社三菱東京UFJ銀行	1,822	2.51
日機装持株会	1,581	2.17
日機装従業員持株会	1,564	2.15
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,526	2.10
日本生命保険相互会社	1,500	2.06
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(三井アセット信託銀行再信託分・CMTBエクイティインベストメント株式会社信託口)	1,404	1.93

ネットワーク (平成19年9月30日現在)

グループ会社一覧

流体技術カンパニー

■ 製造・販売

日機装エコー株式会社

サンダイン日機装株式会社

(日機装サンドストランド株式会社から社名変更)

■ メンテナンスサービス

日機装リユーキテクノ株式会社

■ 海外製造・販売

Nikkiso Pumps Europe GmbH

上海日機装ノンシールポンプ有限公司

Nikkiso Pumps Korea Ltd.

Nikkiso Pumps America, Inc.

Nikkiso Cryo, Inc.

インダストリアルソリューションズカンパニー

■ 製造・販売

日機装サーモ株式会社

(日機装ワイエスアイ株式会社から社名変更)

■ メンテナンスサービス・工事

日機装テクニカ株式会社

■ 海外製造・販売

台湾日機装股份有限公司(工業部門)

Microtrac, Inc.

医療機器カンパニー

■ 販売・メンテナンスサービス

日機装東北医工株式会社

■ メンテナンスサービス

日機装M.E.S.株式会社

■ 海外製造・販売

M. E. Nikkiso Co., Ltd.

Nikkiso Vietnam MFG Co., Ltd.

MeSys GmbH Medizinische Systeme

■ 海外販売・サービス

Nikkiso Medical GmbH

上海日機装医療器械貿易有限公司

台湾日機装股份有限公司(医療部門)

Nikkiso Medical Korea Co., Ltd.

Nikkiso Medical (Thailand) Co., Ltd.

■ 販売

グランメイト株式会社

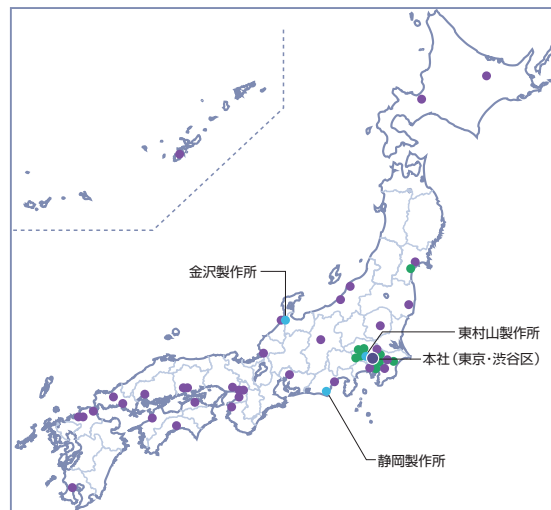
共通部門

創光科学株式会社

Nikkiso America, Inc.

国内拠点・関係会社

● 営業拠点 ● 生産拠点 ● 関係会社



東村山製作所



静岡製作所



金沢製作所

海外拠点・関係会社

● 駐在員事務所 ● 関係会社



株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
基準日	定時株主総会 毎年3月31日 期末配当 毎年3月31日 中間配当 毎年9月30日
株主名簿管理人	(1) 事務取扱所 (お問い合わせおよび郵便物送付先) 〒168-0063 東京都杉並区和泉2丁目8番4号 中央三井信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-78-2031 (フリーダイヤル) (2) 取次所 中央三井信託銀行株式会社 全国各支店 日本証券代行株式会社 本店・全国各支店
単元株式数	1,000株
公告の方法	電子公告の方法により行ないます。 ただし、やむを得ない事由により電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載します。 公告掲載の当社ホームページアドレス http://www.nikkiso.co.jp
上場証券取引所	東京証券取引所 (証券コード6376)

お知らせ

各種手続きに必要な用紙のご請求

住所変更、単元未満株式の買取請求・買増請求、名義書換請求、配当金振込指定に必要な各用紙のご請求については、下記のフリーダイヤルまたはホームページをご利用ください。

●各種用紙請求専用フリーダイヤル

0120-87-2031

●ホームページ

http://www.chuomitsui.co.jp/person/p_06.html

単元未満株式の買取・買増

単元未満株式の買取請求・買増請求は、上記の株主名簿管理人の事務取扱所および取次所でお取り扱いいたしております。なお、証券保管振替制度ご利用の株主様は、お取引証券会社あてにご照会ください。

当社ウェブサイト等のIR情報をご覧ください。

ホームページサイト

<http://www.nikkiso.co.jp>

モバイルサイト

<http://m-ir.jp/c/6376>



日機装株式会社

〒150-8677 東京都渋谷区恵比寿3丁目43番2号
電話 03-3443-3711